

あの夏の絵

福山啓子 作・演出

(出演)

CAST

被爆から70年。
記憶を伝え残すために語り始めた被爆者と、
それを受けとめ、絵に表現することに挑んだ高校生たちの
2015年夏の物語。
同年12月に初演し客席を
感動の渦に巻き込んだ作品が、待望の全国公演に!

被爆者の集会で、初めて広島市立基町高校創造表現科の生徒による「原爆の絵」を見た時は、「被爆者の描いた絵?」と思いました。それほど迫力に満ちた絵でした。どうしてこのような絵が描けるのか、というのが取材を始めるきっかけでした。その後現地へ何度も伺う中で知ったのは、半年をかけて被爆者から被爆前後の経験とその後の人生まで丹念に話を聞き、現場へ足を運び、資料を調べ、繰り返し被爆者と話し合い、時には涙しながら、悪夢を見ながら、「被爆者の手になって絵を描こう」と真摯に向き合う高校生たちの姿でした。そうして「絵を描いたこと」を語ることで高校生たちがみずから新たな語り部となっていました。

記憶を語り継ぐ—その輪の中に、皆様とともに加われたらと願っています。

福山啓子

(ふくやまけいこ)
東京都生まれ。早稲田大学第一文学部卒。1980年入団。文芸演出部所属。
2006年初演の「博士の愛した数式」で脚本・演出を担当、児童福祉文化賞(厚生労働大臣賞)を受賞。その後、「野球部員、舞台上立つ」で脚本・演出、「田畑家の行方」で演出を担当。2017年5月「梅子とよっちゃん」を書き下ろす。

【あらすじ】
被爆者を祖父母に持つ高校一年の恵は、美術部員。被爆証言を絵にする活動に応募することにした。初めて目の前で、少人数で聞く被爆者の証言は、「体験」として胸に迫った。はじめは乗り気でなかった部員たちも証言を聞いて変わっていく。でも、見たこともないものを絵に描くのは想像以上に大変な作業だった…!



青木力弥



藤井美恵子



秋山亜紀子



林田悠佑



傍島ひとみ



前田みどり



初演の反響より

「被爆者のいちばん近くにいなから、被爆二世・三世の私たちは「継承」の方法に戸惑っていました。この作品は大きなヒントと勇気を与えてくれました。」(機関紙「被団協」山田みどり氏)

「言葉が絵を生みだす一方で、絵が記憶を掘り起こし、掘り起こされた言葉が絵をさらに精密にしていく。世代を越えた人々が、過去の真実を明らかにしようと努力する姿は感動的だ。」(野中広樹氏)

「原爆というものをより身近に感じる事ができたい機会でした。広島では8月6日登校ということすら知らず、ただただ普通に、夏休みだ、お盆だと過ごしていた自分が恥ずかしいです。もっと何かを伝えられる、知る努力をすべきだと思いました。」(17才・男性)



(舞台写真2枚) 撮影:V-WAVE

秋田県立 青年劇場

〒160-0022東京都新宿区新宿2-9-20間川ビル4F
TEL 03(3352)6990 FAX 03(3352)9418

info@seinengekijo.co.jp

http://www.seinengekijo.co.jp/

JFN・20周年記念事業

2017年 11月25日(土) 18:00 開演 (17:30 開場)

なかのZERO 小ホール

JR 中央線中野駅南口 徒歩 8分
東京都中野区中野2-9-7 TEL03-5340-5000

会員●2,000円 (JFN・JSSO 会員 / 特別優待券)

一般●4,000円

※料金は消費税込みです。学生・障がい者は半額とします。
※全席、自由席。車椅子でご来場の方は準備の都合上、必ずJFN事務局までご連絡ください。

9月1日(金)
発売開始!

※お問い合わせ・お申し込みは、
月曜日～金曜日 午前9時～午後5時
JFNまでお願いいたします。

主催●一般社団法人日本フロンティア・ネットワーク (JFN)
＜20周年記念事業 / 事務局＞

〒170-0013 東京都豊島区東池袋1-44-3 I SPタマビル7F
電話: 03-6907-8051 FAX: 03-6907-8041

後援●一般社団法人日本社会連帯機構 (JSSO)